

移動経験という側面からみた現代日本の社会意識の構造

—学歴移動・財産取得・主観的社会移動—

岩手県立大学 金澤悠介

1. 目的

本研究の目的は、個人の移動経験—学歴移動・財産取得・主観的社会移動—という側面から、現代日本の社会意識の構造を解明することである。数土(2009)は学歴移動という側面から、狭間・谷岡(2015)は学歴移動と主観的社会移動という側面から、階層帰属意識の説明を行ったが、本研究はこれらの先行研究を2つの面で展開させる。第1に、親世代からの変化(移動)という側面について、親世代より新たに取得した財産の効果も検討する。第2に、説明する意識という側面について、階層帰属意識だけでなく、満足感、格差意識、学歴意識といった他の社会意識も検討する。

2. 方法

本研究は『2015年階層と社会意識全国調査(第1回SSP調査)』(母集団:20~64歳の男女、層化三段抽出法、コンピュータを用いた個別聴取面接法、有効回収率42.8%)を用いた。

3. 結果

まず、社会意識における主観的社会移動の位置づけを明らかにするために、潜在クラス分析を行った。なお、主観的社会移動については、15歳時の階層帰属意識(10段階)と現在の階層帰属意識(10段階)を比較し、「上層継承」「中層継承」「下層継承」「上昇移動」「下降移動」という5カテゴリーを構成した。潜在クラス分析の結果、主観的社会移動および社会意識の構造が異なる4つのグループが抽出された(表1)。

表1 主観的社会移動と社会意識の構造

	主観的 社会移動	階層帰属意識 (5段階)	生活 満足感	格差意識	教育意識
グループA	「上層継承」 「上昇移動」	「上」 「中の上」	高い	特徴なし	大卒が望ましい
グループB	「中流継承」	「中の下」	高い	格差に否定的	大卒は望まない
グループC	「中流継承」	「中の下」	高い	格差に肯定的	大卒が望ましい
グループD	「下層継承」 「下降移動」	「下の上」 「下の下」	低い	格差に否定的	大卒は望まない

次に、潜在クラス分析で抽出された社会意識の構造に、学歴移動、財産取得、および社会経済的地位がどのような影響をあたえるのかを多項ロジット潜在クラス分析回帰分析で分析した(表2)。

表2 学歴移動、財産取得、社会経済的地位の効果

	学歴移動	財産取得	年代	SES(主な効果)
グループA	「高等継承」「上昇移動」+	+	なし	世帯収入+
グループB	「中等継承」+	+	50・60代+	ブルーカラー+
グループC	「高等継承」+	—	20・30代+	正規雇用+
グループD	「初等継承」「下降移動」+	—	20代+	非正規雇用+

以上の結果は、移動経験が世代間/世代内で社会意識の分化を生じさせていることを示唆するものといえる。

付記:本研究はJSPS 科研費16H2045の助成を受けて、SSPプロジェクト(<http://ssp.hus.osaka-u.ac.jp/>)の一貫として行われたものである。SSP2015データの使用にあたってはSSPプロジェクトの許可を得た。